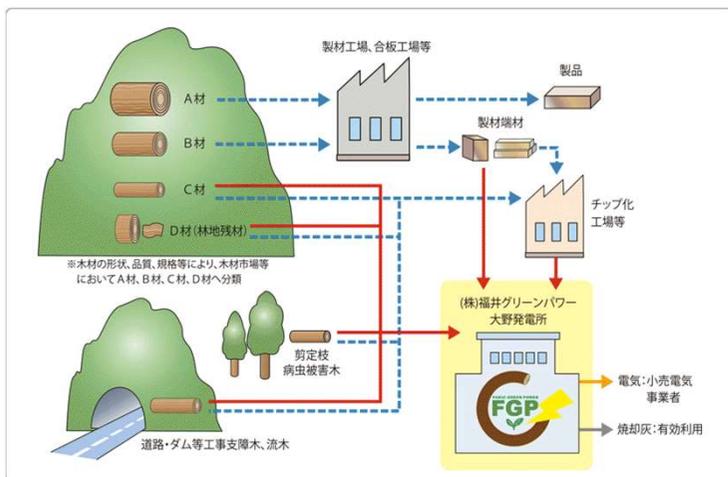


間伐材を中心とした木質バイオマスの地産地消による地域振興



【事業スキーム】

＜概要＞

- 事業実施主体：株式会社 福井グリーンパワー（福井県大野市）
- 発電設備：木質バイオマス発電
発電出力 7,000kW
年間発電量 約5万MWh（一般家庭約15,000世帯分）
- 燃料使用量：7～8万トン／年
- 運転開始時期：平成28年4月
- 総事業費：約40億円

＜特徴＞

- 福井県内で発生する間伐材を中心とする木質バイオマス資源を最大限活用する木質バイオマス発電所。
- 県内における間伐材など燃料の安定供給に向け、県森林組合連合会などは、「福井県木質バイオマス燃料安定供給協議会」を設立。県内の森林組合が同発電所に県内の間伐材を4～5万トン供給する計画。
- 木材価格の低迷などにより、利用されず山に放置されていた間伐材を有効活用することにより、林業の再生、山林の整備につなげる。
- 同発電所の敷地内には、原木の貯木場、チップ化施設、チップ置き場が設置され、原木の受入⇒チップ化⇒発電までを一貫して行える体制を構築。
- 同社の従業員24名中、14名を地元大野市内から採用し、雇用の創出にも貢献。
- 今後、発電に伴って発生する余熱を農業用施設に供給し、地域振興を図ることを検討中。



【木質バイオマス施設の外観】



【チップ化施設】